

君子蘭における水苔栽培のすすめ

日本君子蘭協会 家原 悠

2021年2月21日

君子蘭を初めて育てるといふ方には水苔栽培を勧めている。なぜなら水苔のほうが水やりの頻度が少なくても最高の根張りを作れるからである。「今まで市販の君子蘭の土で栽培していたが、あまり新根が育たず、花も咲かなかった。でも水苔栽培だと何本も新根が生長して花が咲いた」と私が水苔植えしたものを育てている方からの報告があった。また、別の方は根腐れで根がまったくなくなった君子蘭を水苔で巻いて植え、半年もすると元気のいい白い根が何本もでてきて、新しい葉も伸びてきた。瀕死の君子蘭が蘇ったと言って大変喜ばれた。

また、郊外の一軒家やマンションに住んでいる愛好家にとって培養土の廃棄は厄介な問題であるが、水苔ならば『もえるゴミ』として簡単に処分することができる。

私の今までの経験では最も低いグレードの水苔でも君子蘭は従来の赤玉土主体の培養土と比べて驚異的に根が生長すると考えている。去年株式会社ジャパン蘭土のネット通販でニュージーランド産のなかで最もグレードの低い『ブレンド』とチリ産の『3A』のものを使用したけどどちらでも根の張りに目立ったちがいはなく良好な成長であった。

植え替えるときは古い水苔はすべて取り除き新しいものにする。あまり長い水苔を使用すると根と水苔が絡まり、植え替えのときに新根を傷める可能性がある。

君子蘭は東洋蘭などに比べて根の生長が旺盛である。

鉢はプラスチック製のものを使っている。こちらのほうが乾きにくく管理が楽である。水やりの頻度は季節によって変わるが、基本は水苔の表面が乾いたら与える。表面は乾いていても鉢の中は軽く湿っている状態である。特に春と秋の根が一番生長する時期にはしっかりと水を与えている。その時期は液肥、活力剤ともに1000倍の濃度で週に一度たっぷり与える。

真夏でも根は生長するので完全に乾かないようにする。まだ根が細い未開花の苗は特に乾かしすぎに注意する。

冬の間は霜を避けるため室内に取り込んでいる。無加温のものは成長が止るので1週間に一度水やりをする。私はより早く成長させたい未開花の苗は室内に設置した棚で栽培している。

水苔がしっとりと濡れており、乾いたときも鉢の中心までは乾かないのが君子蘭の水加減の理想だが、もし水苔を完全に乾かしてしまった場合は何度も鉢穴から水が流れるように水をやるか、鉢をバケツに張った水の中に浸して水苔に水をしっかりと吸わせる。

通常の培養土で育ててきた君子蘭を水苔栽培に変更する場合は以前の古い土を取り除き、根を水洗いしたあとに水苔で植えれば良い。



苗床から掘り上げた巻き葉君子蘭「パーマネント」
実生苗(播種日は2020年4月1日)
根に付着した黒いものは以前の培養土



水苔植えにした直後(撮影日はラベルに記載)



2021年2月12日撮影
鉢は前出と同じ3.5号、新しい葉が3枚生長



外側にある白く太い根が新しく生長した根
水苔栽培のほうが根は太く長く生長する



水苔栽培では産地やグレードの優劣によらず素晴らしい根の生長をする。
左の写真は11月の君子蘭協会展示即売会の競売で入手した割り子。
割り子されたばかりで長い根が5本しかなかったのでチリ産『3A』の
水苔を使って植えた。今では鉢の中いっぱい新根が生長している。鉢
は7号のプラスチック鉢を使用。撮影日は2021年2月15日